

教材事例書式

教材教具名 猛獣ボウリング	教科(算数)	
<p>教材教具写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>		
<p>教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等</p> <p>1 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌やゲームの楽しさを友達や教師と共感し合い、笑顔や声で表現する。 ・ゲームの流れ見て理解してボールを転がして猛獣をたおす。 ・ピン(猛獣)の数とボール(玉)の数を1対1対応することがわかる。 ・1と2と3の集合数を見分ける力をつける。 <p>2 発達段階</p> <p>笑顔での交流が育つ時期 感覚を通してかかわりを広げる時期 操作することを通して数や量を認識する時期</p> <p>3 使い方</p> <p>準備: 猛獣の絵(5種の絵)を本物のボウリングのピンにはる。スロープとボールを各種用意する。</p> <p>方法: 猛獣(3匹いない)がでてきて、猛獣1に対して1個のボールを選ぶ。あるいは好きなボールを選ばせる。 スロープからボールを転がし猛獣を倒す。 (猛獣は必ず倒れる位置に出す。)</p>		
<p>児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猛獣狩りの歌を歌うことで活動への意欲が高まった児童がいた。 ・ボウリングのピンが倒れた音がかなり大きかったので、それが楽しく、笑顔にたり楽しさを表現していた。本物の木のピンを使って良かった。 ・色や形がはっきりとしていたので興味をもって猛獣の絵が出てくるところ倒れるところをよく見ていた。 ・猛獣ということで怖いというイメージが強く、指導の内容よりやろうかどうしようかという葛藤が強くなった児童もいた。(くま、ライオンなどが怖いようだった)配慮した方がよかった。 ・猛獣に対応してボールを選び、1対1以上はいらぬと言えた児童がいた。ゲームという設定で活動への意欲が高まった。 		

